

Japan
Handball
Association



社会人
 学生
 高専
 高体連
 中体連
 小学生

全国大会
 ブロック大会
 都道府県大会

男子
 女子

試合
番号 40

年月日 2023 年 3 月 29 日 (水)
大会名 令和4年度 第46回全国高等学校ハンドボール選抜大会 Presented by MIZUNO

公 式 記 録 用 紙

A	県立藤代紫水高等学校										北陸高等学校										B
都道府県 三重県			市町村 津市				会場 サオリーナ メインAコート										回戦 決勝				
前半	A	B	最終 結果	A	B	第1 延長	A	B	第2 延長	A	B	7m70- コフテ	A	B							
7m得点/総数		A	チームタイムアウト									チームタイムアウト			B	7m得点/総数					
		1/1	1	2 後	3							1	2 後	3	0/2						
			2101	1501							2434	0805									

No.	藤代紫水	G	W	2'	D	DR	No.	北陸	G	W	2'	D	DR
1	齋藤 慧遵						3	若林 壮太					
2	山本 隼司						4	徳山 漣					
3	藤井 悠輔	1					5	北村 怜也					
4	飛澤 翔						8	日元 廉					
5	大橋 真人	9					9	青柳 修					
6	牛丸 三士朗	5					10	和泉 柊成	8				
7 c	生鷹 頼太	3					11	間瀬 暖大	5				
8	小久保 穰	4					13	山田 晃綺					
9	大友 克海						15	佐々木 誠大					
10	水野 聖愛						17 c	永森 悠透	7	1			
11	茅場 蒼太						19	関口 比呂	2				
12	上西 光生						21	武田 心稀	3				
13	瀬霜 孝介	3		1			22	河原 龍成	6		1		
14	栗山 摺世						23	小幡 駿陽					
15	上野 良祐						30	宮下 千毅					
17	山崎 琉偉												
監督A	小倉 慶輔						監督A	福村 正巳					
役員B	滝川 一徳						役員B	洪 徳顯					
役員C	会田 亮祐						役員C	大谷 尚史					
役員D	尾中 祐二						役員D						

A	チーム役員A署名																				B
---	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---

特記事項

レフェリー	駒谷 研志	波多野 祐介		
TD	長谷川 将規	千種 雄介		
MO	疋田 雅己			

得点(G),警告(W),退場(2),失格(D),報告書付き失格(DR)特記事項に報告書として内容を記入

試合 番号	40	男子 [①]
----------	----	-------------

令和4年度 第46回全国高等学校ハンドボール選抜大会
Presented by MIZUNO

試合結果・戦評報告書

競技日	3月29日 (水)	会場	サオリーナ メインAコート		
種別	男子	回戦	決勝		
Aチーム名			Bチーム名		
県立藤代紫水高等学校			北陸高等学校		
得点合計	小計	period	小計	得点合計	
25	10	前半	18	31	
	15	後半	13		
		第1延長前半			
		第1延長後半			
		第2延長前半			
		第2延長後半			
		7mTC			
戦評		記載者氏名	中森一郎		
<p>選抜大会で共に優勝経験のある強豪校同士の決勝戦。前半立ち上がり藤代紫水がNo.7生鷹のサイドシュートで先制するが、北陸もNo.17永森のロングシュートで同点とする。藤代紫水がNo.13瀬霜、No.8小久保、北陸がNo.17永森、No.21武田で点を取り合って、8分3対3。ここから北陸はNo.11間瀬のポストシュート、No.10和泉のサイドシュートなどで14分8対5とリードするが、藤代紫水もNo.3藤井、No.8小久保で2連取して流れを渡さない。しかし北陸は19分からNo.22河原の速攻、No.11間瀬のポストシュートなどで4点差をつける。ここで藤代紫水がタイムアウトをとり、流れを変えようとするが、7人攻撃を仕掛ける北陸がNo.17永森、No.10和泉らでさらに4点を連続ゲットして大きくリードする。藤代紫水は北陸のアグレッシブな立体ディフェンスに苦しみ、なかなか得点が伸びず、18対10と北陸8点のリードで前半を終了する。後半に入り、序盤は藤代紫水のペース。No.5大橋の速攻、No.7生鷹のポストシュートなどで、8分には21対16と5点差まで迫る。その後もNo.6牛丸、No.5大橋らで食い下がるが、北陸の勢いも止まらず、No.21武田のミドルシュート、No.10和泉のサイドシュートなどで15分には26対18とリードを8点に引き戻す。藤代紫水はNo.5大橋が豪快なロングシュートを連続して決めるなど果敢に最後まで戦ったが、北陸もNo.10和泉、No.22河原らが要所で得点を重ね、31対25で勝利し、全国の頂点に立った。敗れたとはいえここまで接戦を勝ち抜いて決勝まで駒を進めた藤代紫水の戦いぶりも、大いに大会を盛り上げた。</p>					